



以前、携帯電話を機種変更した際、担当者から「〇×

◆はいかがいたしま

すか？」と意味不明な質問に頭が真っ白になり「もう一度説明してくれますか？」と返したところ、一瞬相手がムツとしたような印象を受けた。渋々再度説明してくれたが、何となく理解した程度で終了し、少々気分不快で終わった。あれから数年後、また機種変更に出向くことになり、若干のトラウマの中担当者に向き合うことに。今は事前に契約書などを見ておき、不足なことは窓口で対応してくれるようだった。機種変更に伴うさまざまな作業を担当者がしている間に、渡されたタブレットで動画による説明を視聴し、内容に不明点があれば聞くことができるというもの。待たされる時間の

ICT化へのつづき

苑長 池田めぐみ

❧ 文集

なぎさ

第78号
なぎさ和楽苑
令和4年12月14日発行

短縮と、一定のスピードで作られた動画は聞きもらしたら再度戻して確認ができ、かえって相互にゆとりが生まれプラスアルファの質問もできた。受付では窓口担当にインカムで呼びかけ、客が来たことを知らせ、窓口に向かう客に対して立ち上がって待機している。スタッフがバタバタ動いている様子はなく、穏やかだ。こんなことがICT化による効果の一つか、と実は何となく生活の中でICT化された環境に触れていて便利になったことがあると気付かされる。介護分野へのICT化導入はコロナ禍も後押ししたようにかなりのピッチで変化が起きていると感じる。ICT化による生産性向上の追求、科学性に基づくケア等介護現場の進化は、介護の質や利用者のQOL向上のため、そして職場環境改善に結びつけられるよう取り組みたいものである。

「日本認知症ケア学会認定機関」になりました

当苑では、令和4年度から3年間、日本認知症ケア学会認定機関として認定されました。本制度は、一般社団法人日本認知症ケア学会により、質の高い認知症ケアを社会に普及させることを目的に、機関認定制度を創設されたものです。「認知症ケア専門士、認知症ケア上級専門士が所属し、かつ一定の要件（地域社会への貢献等）を満たす福祉・医療機関等を認定するもので、質の高い介護職員の配置を促進するとともに、地域社会の福祉課題に取り組む機関について、その情報を利用者に提供すること」を

目的としています。

当苑には認知症ケア専門士の資格取得者が複数おります。今回の認定を機に、さらに認知症ケアについて学びを深め、質の高いケアにつなげていきたいと思いをします。





あしたば EVENT REPORT



アルツハイマーデーへの取り組み

令和3年9月、当苑では、世界アルツハイマーデーと制定された9月21日を中心に9月を世界アルツハイマー月間として、オレンジTシャツの着用、缶バッジ（フリーサロンあしたばで作製したアルツハイマーデーのロゴの入ったもの）やオレンジ色の小物着用、アルツハイマーデーリーフレット（公益社団法人 認知症の人と家族の会 作成）を勉強会や面会のご家族様に紹介するなど、なぎさ楽苑全体で取り組みました。特養ではご入居者様と共にオレンジの花紙を作成しユニットに飾り、地域福祉推進課では、来苑したケアマネジャーにリーフレットのコピーを配布しPR。関心のある居宅介護支援事業所に缶バッジ販売のPRを行うなど、各事業所の特性に合わせた活動を行いました。

今後も、地域にも発信していけるよう継続して取り組んでまいります。

若年性認知症セミナー報告

令和3年9月26日（日）、「地域で支え合う若年性認知症 RART16 ～若年性認知症への理解～」を実施しました。フリーサロンあしたばの活動から見える支援のあり方について、またその人らしい日常生活に向けた支援のあり方について家族、地域課題を踏まえた講演を池田苑長が行いました。その後行われた、さまざまな立場のご家族と当事者のパネルディスカッションには、総勢33名の参加があり、

- ・支援制度を知らない方への効率の良い広報活動が必要だと感じた
- ・地域社会において、ニーズに応えられるようなサービスが望まれる
- ・就労を続けられたり、支援の手が広がることが望まれる
- ・家族、介護者だから感じる悩みを知り、環境や状態の違いで必要なことが変わる
- ・ご本人やご家族の発信は周りの気づきに繋がり、地域共生社会に向けさらに必要になる

などの貴重な感想、ご意見を頂戴しました。若年性認知症支援事業を続けていくなかで、さらに深め、広げてまいりたいと思います。



あしたば工房

順天堂大学古田晶子先生監修によりあしたば工房で作成した「ビーワックスアート」は、茅場町の「ペーパーボイス東京」に展示され、2作品が売れました。展示会では、作品名と作者名のみ表記し、著名な芸術家、あしたばメンバー、障害を持った方などの作品が一堂に展示されていました。障害を持った方の作品なので…などの先入主もなく、純粋に作品としての評価が販売に繋がりました。売れたお二人には、諸経費を差し引いた金額をお渡しさせていただきました。「何に使いますか？」と尋ねたところ、「内緒」とお二人ともにっこりされておりました。



あしたばカフェ

令和3年12月19日（日）、久しぶりに対面でカフェを行いました。上映した動画では、あしたばメンバーが1年を振り返り、「今年の出来事」「来年の抱負」を漢字一文字に例え、習字した字を発表しました。独特の間がある方、書いた文字への想いを熱く語る方がおられ、温かい拍手が沸き起こりました。また、プレゼント企画の「全員参加のじゃんけん大会」では、景品獲得にチャレンジ。勝ち負けに一喜一憂、じゃんけんの掛け声で盛り上がりました♪



季節の行事

EVENT REPORT



赤い羽根共同募金活動

昨年も10月1日の赤い羽根共同募金のために、みのり自治会役員の方々と綿密な話し合いを行ってきました。その話し合いの中では、「私はもうベテランだから、任せて!」と非常に頼りになる言葉で私たちを鼓舞してくれました。そんな中迎えた、赤い羽根共同募金当日は感染症対策のため、例年通り西葛西駅での街頭での募金活動は行うことができませんでしたが、特養各フロアで募金活動を行いました。みのり自治会役員の方々がご入居者様や職員へ誠心誠意、募金への協力を伝えていたのが印象的でした。

節分

今年も節分にちなんだ催しを行うことでご入居者様に節分の季節を感じていただきました。あるユニットでは職員が鬼に扮し、ご入居者様が豆を模したボールを投げて厄を払い、無病息災を願いました。また他のユニットでは、豆乳ジュースや昆布茶等をご提供し、普段と異なるひと時をお過ごしいただきました。ご入居者様と職員の笑顔があふれる日となりました。



ちぎり絵

ご入居者様にちぎり絵に挑戦していただきました。参加して下さった方々は、とても真剣な表情で取り組んでいらっしゃいました。集中しながらもお互いに声をかけ合い、思い出話に花を咲かせながらあっという間に作品を完成させてくださいました。できた作品はとても色鮮やかでユニットをパッと明るくしてくれています。機会があれば一つの大きな作品を皆さんと作ってみたいと思いました。



バレンタインデー

2月にバレンタインにちなんだ催しをユニット内で行いました。開催にあたって職員間で役割分担し、ご入居者様に日頃の感謝を伝えるために趣向を凝らしました。当日はユニット内をバレンタインカラーの赤とハートをメインに飾り付け、バラやガーベラを花瓶に生け、華やかな雰囲気づくりをしました。また、職員で顔出しパネルを作成し、ご入居者様の素敵な笑顔を引き出すことができました。チョコレートの飲み物も提供し、「おいしい!」と好評のお声をいただきました。ご入居者様に感謝の気持ちをたくさん伝えられた一日となりました。



熟年相談室より

デジタルデバインドに向けた取り組み

『デジタルデバインド』…皆さん、この言葉を聞いたことがありますか？ インターネットなどの情報通信技術を使える人と、使えない人との間に生じる格差を表す言葉です。コロナ禍で、「直接会えない」ことや、行政等からオンラインでの情報発信も増えていて、デジタルデバインドが進んでいることを、強く感じています。「スマホは持っているけど、電話しかできない」「苦手な気持ち強い…」との声も多く、私たちは地域の熟年者の方向けに、スマホ教室を開催しています。



コロナ感染症や災害等の情報の検索方法やQRコードの使用方法など、基本的なことからお伝えし、大変好評の声をいただいています。また定期開催している介護予防教室も、参加希望者にYouTubeで配信したり、認知症サポーター養成講座もオンラインで開催したり、新しいチャレンジを始めています。

総務省でも「誰一人取り残さない」デジタル化の推進が掲げられています。私たち熟年相談室の今後の活動の中でも、地域の熟年者の皆様に、スマホやインターネットへの接触機会を増やしていただけるように、取り組みを継続していきたいと考えています。



なぎさ和楽苑における障害福祉サービスについて

計画相談支援事業

精神障害者手帳を保持されたご利用者様や、障害を持つ子どもがいる利用者世帯など、介護保険の支援だけでなく、視野を広く持ち世帯での支援が行えるよう、令和2年11月1日に事業所を開設しました。

現在の利用人数は8名（うち2名は6月に支援開始）。障害支援では、年齢の幅が広く障害種別により利用できるサービスも異なるため、必要な知識(支援)を習得していくことが課題と感じています。若い世代の方は、何事にも意欲的に取り組まれているので、支援している私たちが力をもらっています。今後は、ご利用者様が社会での役割を得られるように支援し、障害、介護保険にかかわらず世帯としてご利用者様とご家族を支えていけるようにしていきたいと思います。

障害者短期入所事業

区内には障害を持つ方に対する短期入所事業が少なく、特別養護老人ホームの空きベッドを活用できないかと江戸川区から要望があり、令和3年4月に指定を受けました。初回ケースは令和3年11月となりましたが、それまでに、えがおの家の利用者のご家族向けに説明会を実施、他施設を見学し準備を行いました。現在は数名の利用実績となります。開始してみても、同性介助など勤務体制、医療依存度（てんかん）の対応方法、見守りの環境面の課題について、リスクや不安もあり、職員の力量アップが必要と感じています。一方、開始にあたり開催した説明会では待望していたとの声もいただき、ニーズを感じております。

今後の展望としては、世帯支援（介護が必要な親、障害がある子）などを通して共生型社会の実現に向かうことができたかと思っております。また、受け入れ体制の強化（医療の勉強会・研修や相談、介護も外部研修に参加するなどして知見・ネットワーク強化）や当苑独自の強みを確立していきたいと考えております。



11/1～11/14

介護の日イベント開催!

『平成20年より、11月11日が「介護の日」と定められ、当苑でも日頃介護や福祉に関わりの少ない方々に、少しでも介護について関心を持ってもらう機会になるよう、平成21年からさまざまなイベントを実施しております。令和3年度は「Keep on Smiling◎Keep on Happiness」をテーマとし、介護を通じて笑顔と幸せを届けられることができる企画を11月1日～11月14日の期間で実施しました。

感染症予防対策から集客するイベントは少人数で開催、また情報発信型の企画を多く盛り込みました。

集客型のイベントでは地域住民を対象にしたスマートフォン教室や、当苑が取り組んでいる「オンラインボランティア」活動を実際に体験する企画、また感染症予防対策を徹底しボランティアのShin-Chan&モナチーズの



皆さんによる介護の日記念コンサートを開催しました。情報発信型のイベントでは、YouTubeやInstagram



といったSNSツールと「介護の日イベント便り」の配布等、幅広い世代の方に情報をお届けできるような取り組みを実践しました。当苑のYouTubeチャンネルには介護の日記念動画が配信されていますのでぜひご覧ください。

またイベント期間には“なぎさ◎フードドライブ”と題した、ご家庭に余っている食べきれない食品を持ち寄り、必要としている団体・施設・個人にお届けする企画を実施しました。多くの方々のご協力もあり、集まった全ての食品を地域の皆様にお渡しすることができました。受け取られた方からは「近くでいただけることもあり、非常に助かりました」とのお声をいただいております。今後も継続的に取り組みを進めていきたいと考えています。



夏のリモートボランティア ～はなれていても、つながれる～

コロナ禍でも人と人が安全につながり、支えあうために、東京ボランティア・市民活動センターが主催しているイベント「夏のリモートボランティア～はなれていても、つながれる～」に当苑も2つの企画で参加させていただきました。令和3年7月～9月に開催されたイベントであり、多くのボランティアの方が参加してくださいました。

一つ目の企画は「高齢者福祉施設でオンライン特技披露ボランティア」です。夏休みを利用し、中学生が書道の腕前を披露してのクイズ、高校生がギター演奏、

大学生がアカペラ披露等各年代の学生がご自宅から特技を披露してくださいました。それぞれの特技に大きな拍手が送られていました。



二つ目の企画は「世界に一つのうちわを作って敬老の日をお祝いしよう!」です。手作りのうちわをご入居者様へ送る企画であり、当苑が毎年9月の「敬老の日」に合わせて開催している「長寿を祝う集い」でお一人おひとりに記念に配布させていただきました。

175枚の想いの詰まった素敵なうちわが届き、敬老行事に花を添えました。





TOPICS

赤間写真展

ご入居者様と苑長との座談会の際に、普段から多くは語らない赤間さんが発した「写真を撮るのが好きでした」という何気ない一言。その言葉から、在宅で生活している際に撮影した数々の写真を和楽苑の各所に飾る「写真展」の開催や、ご本人にカメラで自由に好きな物を撮っていただくといった取り組みを行ってきました。

その後、写真への意欲を取り戻し、活気溢れる姿を見て私たちも自然と笑顔がこぼれました。日常の一幕で発せられた何気ない一言を「受け流さないで良かったな」と思わずにはいられませんでした。



熟年ふれあいセンターから移行して

昨年6月末、惜しまれながら終了した熟年ふれあいセンターの利用者の皆様には、いきいきトレーニング、ふれあいホールを継続して利用していただいております。皆さんの声を集めてみました。

- ・来る前は不安だったけどみんな優しくしてくれるから安定して来られています。
- ・家だと一人でテレビに話しかけるしか会話しな。ここに来ると仲良しの方が隣にいるから寂しくない。
- ・スタッフもよくしてくれるし、みんな一緒だからありがたいと思っている。
- ・うるさいから迷惑かけているかもだけどとても楽しんでいる。
- ・みんながいるから安心。みんなに会えるのが毎週楽しみ。
- ・ブンネ、手作りサロン、体操レク、オンラインレク等、いろいろな活動があるので楽しみが増えました。

などの声を頂戴しました。お話を伺う中で、熟年ふれあいセンターに同じ曜日で通っていた方がどうしているか？などの話もあり、昔を懐かしみつつ今を楽しんでいらっしやるのが分かりました。この先もお元気に、未永く通っていただきたいと思います。

もともと祖父と同居するなかで、自分で言うのも恥ずかしいが、かなりのおじいちゃんっ子であった。小さい頃は毎日一緒に風呂に入り、時代劇を見るのをよく付き合わされた。小学生が時代劇と思われる方もいるかもしれないが、一緒に過ごす時間は苦ではなかった。祖父の他界後、「もっといろいろなこ

平成13年に入職し、気付けば20年という年月が経過していった。ちょうど良い機会であったため、なぜ自分が福祉業界に興味を持ち、現在まで続けられたかを振り返ってみたいと思う。

文集に寄せて



職員より

とをしてあげられたのでは？もっとたくさん話をしたかった」という思いがあり、祖父に対してできなかったことを他の方に…という気持ちが強くなり、高校生のときに近所にある施設にボランティアに行ったのがきっかけで福祉系の専門学校に進学を決めた。

専門学校卒業後、なぎさ・和楽苑に入職し初めの配属先は特養であった。その後、短期入所（ショートステイ）、通所介護（デイサービス）、福祉用具、訪問介護（ヘルパー）とさまざまなセクションを経験させていただく中で、正直なところ、幾度となく退職を考えた時期もあったが、「ご利用者様の笑顔、笑顔で働く職員の姿」に癒され刺激され、現在まで続けられたのだと感じる。

今後も自分なりのペースで、楽しみながら福祉業界に貢献できよう頑張りたいと思う。

地域部 居宅サービス課 訪問介護事業係
主任 藤田 吉春



＜令和3年度介護保険制度改正に伴う取り組み報告＞

令和3年度の制度改正では、新型コロナウイルス感染症や大規模災害の発生に伴う「感染症や災害への対応力強化」、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止」等が重点項目として掲げられました。また、サービスの適正化として、ご利用者様の人権擁護や虐待防止等の観点から、虐待の発生・再発防止のための委員会の設置、指針の整備、研修の実施が3年間の経過措置が設けられた中で義務付けられました。

当苑ではこれまでも毎年新任・現任研修にて、「養介護施設従事者等による高齢者虐待」「養護者による高齢者虐待」の防止に関する研修を実施してまいりましたが、令和3年度は特養・在宅部門それぞれに、委員会の設置、指針整備等の体制強化に取り組みしました。在宅部門では、サービス事業管理者で構成される会議と一体的に委員会を開催し、連携して取り組みを進めています。さらに障害福祉サービスにおける事業を展開する中で、令和4年度は障害者虐待防止についても

委員会の設置、研修の実施等に取り組んでまいります。

また、長期化している新型コロナウイルス感染症や他自然災害等の発生時に、サービスが滞りなく提供できるよう事業継続計画（BCP）の策定に取り組んでおります。

高齢のご入居者様が生活している特養では、クラスターを経験した区内施設の経験をもとに、職員がコロナ感染や濃厚接触・体調不良等による長期欠勤など出勤率が最小限となった場合にもご入居者様に必要なケアが提供できるよう、指示系統の確認・物品の管理・ケアの見直しを行っております。在宅サービスでは、わずかながら感染発生に伴い事業体制変更が迫られる場面も経験いただきましたが、幸いなことに大事には至らず、事業を継続することができました。今後もご利用者様が安心して当苑サービスをご利用いただけるよう、あらゆる場面を想定し、より実態に即した計画となるよう、定期的なBCPの更新を進めてまいります。

そよかぜ活動報告

在宅の介護職員を対象にした「そよかぜ」の活動は、法人理念である「思いやりの心の介護の実践」を念頭に置き、接遇から介護技術までの向上を目指して活動を展開しております。

今までは、3大介護を集中的に学び、実践を行ってきました。昨年度より、認知症ケアについて学ぶ機会を設けました。ただ単にできないことを手伝うのではなく、自立した生活を送ってもらうには、認知症の方の心の思いを理解することが大切で、そこから真の認知症ケアができると感じております。

今年度に関しても認知症ケアを中心に学び、専門職としてスキルアップをしていきたいと思ひます。

アレンジメント委員会の活動

ご利用者様、職員にとって過ごしやすい環境づくりを推進するために発足した当委員会では昨年度、現状を把握すべく全職員を対象としたアレンジメント調査を実施し、1年を通して分析を行いました。今後は分析結果を基にセクションや関係者間での話し合いや具体策の立案を促進し、実践できるよう提案や発信を行ってまいります。またSDGsの取り組みについても活動展開に向けて、合わせて発信していきます。

令和3年度

法人合同階層別研修（チーフ層）

令和3年12月2日、当法人の千代田区一番町ホーム内のカスケードホールで事業所のセクションチーフを対象とした法人合同階層別研修を開催いたしました。講師にマナーセンス代表の湯佐弘子先生を招き、ペップトークを基本とした人材育成に関する講義を実施しました。ペップトークとはアメリカのコーチング技術を応用したもので、声掛けの工夫、ポジティブ思考への意識転換を学びました。相手に配慮した言葉かけ、自己重要感を再認識した研修となりました。



TOPICS

食の楽しみ

「いきなりステーキ」のキッチンカーでステーキの提供が2回ありました。1回目は利用者・入居者向け、2回目は希望する職員も頂きました。アツアツのステーキは利用者・入居者用は食べやすくカットが入っていました。見た目のボリュームとは裏腹に完食される方が続き、本格的なステーキに舌鼓を打ちました。

また、例年12月のクリスマス近くになると元ホテルオークラ総料理長の浜崎日出夫シェフの料理を利用者の皆さんが楽しみにしております。前日から仕込んだハッシュドビーフは、味も見た目も素晴らしく皆さんの箸が止まりませんでした。ふれあいホールにお越しになった浜崎シェフと一緒に写真撮影を希望する方が多く、料理が冷めてしまうのでは…との心配もでるほどの人気でした。素敵なひとときをありがとうございました。



■御寄贈の部
日向弘子様、松井九重様、株式会社JALUX様、須賀なつ様、花キューピット東京ブロック協議会様、余宮良子様、橋高弘子様、株式会社サポート代表取締役 中島和紀様、中込直美様、三枝万里子様、菱幸運輸株式会社様、東京都公衆浴場業生活衛生同業組合 江戸川支部長 中山光雄様、山中季様、M. SRIMALA ASWANI 様、小倉幸治様、関東第一高等学校父母の会会長 田中勝彦様、原眞治様、嶋田美保様、明治大学 総務部様、山岡てる



施設運営御賛助御芳名

(2021年10月～2022年3月)

様ご家族様、澤田石洋子様、森幸男様、橋本義子様、なぎさ音楽苑家族会様、特定非営利活動法人 ハンズオン東京様、フードバンクジョイライフ代表 高橋信行様、二階堂由香様、湯本和司様ご家族様、公益財団法人 24時間テレビチャリティー委員会様

■御寄付の部
森山義一様、山本綾子様、長澤啓江様、三宅高明様、渡辺いと子様、なぎさ音楽苑職員自治会様、鈴木京子様、なぎさ音楽苑家族会様、石田正子様、大關満佐江様

＊心温まるご支援に感謝いたします。
尚、苑行事に伴うお祝いは割愛させていただきます。

後援会加入のお願い

皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

■お申し込みは下記まで

社会福祉法人東京栄和会

なぎさ音楽苑後援会

事務局 なぎさ音楽苑

江戸川区西葛西 8-1-1

☎ 03-3675-1201

会費 個人 一口 1,000 円 団体 一口 5,000 円

会長 安斎 久喜
事務局 平井 剛

公式SNS紹介

当苑では新たな幅広い世代への情報発信手段として、公式SNSを開設いたしました。Instagram (インスタグラム) の公式アカウントと公式YouTubeチャンネルになります。今後も個人情報保護には配慮しつつ、当苑の取り組みをタイムリーかつ、わかりやすく発信してまいります! ぜひご覧ください♪



Instagram

公式アカウント:
@nagisawarakuen



YouTubeチャンネル



文集なぎさ第 78 号

〈令和 4 年 12 月 14 日発行〉

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ音楽苑

発行者 苑長 池田めぐみ

編集 「なぎさ」文集委員

(遠藤・吉村・鳥居・中村)

〒 134-0088 江戸川区西葛西 8-1-1

info@tokyoeiwakai.or.jp

http://www.tokyoeiwakai.or.jp

TEL.03-3675-1201 FAX.03-3675-1203

制作 樹明光企画

編集後記

新年度が始まり、なぎさ音楽苑も新人職員たちが入職し、新たな仲間が増え活気ある日々を送っております。その中でwithコロナの今、当苑ではサービスの質を高め維持するためにさまざまな取り組みをしております。今後も試行錯誤しながら、より良い環境にしていきたいと思っております。

また世界では今の時代に考えることのできない戦争が続いており、毎日のように流れる痛ましい報道に心を痛めています。一日も早い終息を願うばかりです。このような世の中ですが、今後も前を向き頑張っていきたいものです。

(吉村)

